

西赤石山登山

右城 猛

9月13日の日曜日を利用して安見さん夫婦と西赤石山に登山をした。目的は、「日本一の紅葉を見る涸沢登山」のための訓練。10月9日から3泊4日で安見夫妻に連れて行ってもらう計画である。

約束していた日浦登山口に9時到着。既に安見さん夫婦、それに奥様の兄さんが到着し私たちを待っていてくれた。

登山口の駐車場には公衆便所や案内図があり、とてもよく整備されている。



9時20分、日浦登山口を出発する。



私たちの登山コースは、別子銅山跡地を通過して銅山越から西赤石山に向かうルート。



駐車場から階段を登ると、「住友の森，旧別子史跡登山道(別子ダム湖畔登山口)」と書かれた看板が立っていた。



途中、日本の三大銅山の一つとして数えられた別子銅山跡地を通過する。



駐車場から約15分歩くと、「小足谷集落跡と醸

造所跡」と書かれた看板があった。ヒノキの森林の中に石垣が残されているだけである。

別子銅山は江戸時代の元禄4年(1691)に開坑して、昭和48年(1973)の閉山までの300年間、最大規模の銅鉱脈を持つ鉱山の町として栄えた。



熊本城を思わせる見事な石垣



小学校跡の奥には「土木課と山林課」と書かれた看板があった。土木課が住友建設(現在の三井住友建設)、山林課が住友林業の前身だろうか。



小足谷接待館と傭人住宅。煉瓦塀が残っている。



見事な石垣



小学校と測候所跡。最盛期の明治32年には男女298名の生徒がいたようである。



ダイヤモンド水。冷たくてとても美味しい。



足谷川を何度も渡る。川には立派な橋が架けられている。



11時10分、銅山越に到着。登山口から1時間50分が経過していた。石垣で造られた背後の墓は、風雪で行き倒れになった無縁仏を祀る墓。



別子銅山発祥の記念すべき最初の坑道である歓喜坑と歓東坑。老朽化していたものを2001年に所有者である住友金属鉱山が開坑当時の状態に復元した。



銅山越からの登山道は稜線に沿って作られているので比較的平坦であるが、西赤石山の頂上に近づくると急な岩場が数カ所出現する。



歓東坑の前で記念撮影。



13時5分山頂に到着。登山口からの所要時間は途中の休憩も入れて3時間45分。やっと山頂にたどり着いた喜びを安見さんに撮ってもらう。



別子銅山の集落跡。石垣の間に根を生やしたヒノキ。



山頂で持参した発泡酒を飲んで、少し遅い昼食。東赤石山から縦走してきたという男性の登山家写真を撮ってもらう。



駐車場に帰り着いたのは17時。出発から7時間40分が経過していた。



下山の頃になると霧が晴れて空が真っ青。ススキが咲いて秋の気配が漂う。



松山に向かう途中、西の空があかね色に染まってとてもきれい。思わずシャッターを切る。

(2009年9月15日記)